

国際文化専攻

Graduate School of Intercultural Communication / Major in Intercultural Communication

募集人員：修士課程 15名／博士後期課程 3名 | 開講形態：**昼夜も開講** | キャンパス：市ヶ谷
 長期履修制度：有 | 主な進路：研究職、教員、公務員、旅行業界、出版印刷業界、広告業界など

異文化との交流によって成立する「国際文化」を探究。

グローバル化・情報化が進展する世界において、国際文化学という新しい総合的学問が求められています。多様な文化が相互に依存しながら存在する国際社会。それらをインターカルチュラル・コミュニケーション、すなわち異文化間の理解と交流によって成立する「国際文化」として捉え、研究することが本専攻の目的です。

主たる領域は、異文化相関関係研究・多文化共生研究・多文化情報空間研究の3つ。さまざまな文化が共有する問題と構造の重層的な研究、文化を中心に政治・経済も加えた広い視野による国際社会の考察、どんな文化の中にもある「内なる他者」「内なる異文化」の解明、国際文化における日本文化の相対化、情報空間に成立する文化に対する国際文化としての理解などに取り組んでいます。

国際文化を個別的・横断的・総合的に把握する広い視野と高度な文化理解の方法論を身に付けたインターカルチュラル・コミュニケーションの研究者と、その理論を行動に生かせる人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

(学生の受け入れ方針)

一般入試、学内入試、社会人入試、外国人入試といった多様な入学経路を用意している。そのため入学者は、本学および他大学の学部や大学院修士課程の修了者、社会人経験者、外国の教育課程の出身者で構成される。このような多彩な入学者は本専攻の特色を反映している。今後も社会の教育ニーズに応える入試制度、本専攻の特色を生かした入試制度を整えていく。その一環として、一般入試と学内入試については、2014年度から英語以外の外国語能力も考慮の対象とした。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

学際性と専門性の両立、深化をポリシーとしている。特に、修士課程の「国際文化研究」「国際文化共同研究」は、当該学年の学生全員が履修する授業として、本専攻の多くの教員が関与する中核的活動として、ポリシーを体現している。また、全授業で学期開始前のシラバスに加え、学期終了後の報告書も作成することで授業内容を吟味している。このように授業内容改善のためのPDCAサイクルを機能させている。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

「国際文化研究科学位基準」を独自に設け、高い水準での成果物(学位論文など)の制作を求めている。今後も、学際性と専門性の両立を目指すこうした学位授与方針を堅持する。また、キャリアアップや政策提言・自己啓発など、大学院進学者のニーズの多様化(留学生、社会人など)にも対応するために、リサーチペーパーに基づく修士号授与を2015年度入学者から導入した。

研究室紹介 | 「国際」・「関係」を問い直し、「関係性」を重視する分析へ

今泉教授 | ミクロネシアと日本との関係の歴史、現在を国際関係学から追究する

国際関係学を専門とするゼミで、各自のテーマを「国際関係」の展開、特徴を踏まえ、日本における国際関係学の発展にも理解を及ぼしながら追究する。具体的な事例から学際的には、ミクロネシアや沖縄を対象とすることが多いが、日本と日本の植民地・占領地との関係から「国際関係」を分析する上では、欧米諸国と日本の植民地政策の関係、植民地社会の形成と変容、その下での人びとの移動、諸運動、くらし、意識、そして脱植民地化や植民地責任の問題を取り上げる。史料収集と聞き取りの方法、研究対象を通時的、共時的に、“料理する素材”ではなく研究主体の存在に関わる対象として分析すること、つまり「関係性」から捉える方法を学ぶ。

※本専攻には、このほかに異文化相関や多文化共生などの分野を扱う、全部で20の研究室があります。



Voice



修士課程 在学中
平田 真也

日々新たな刺激をもらえる環境で、俯瞰的に物事を捉え、広い視野で新しいアイデアを発見できるように

大学院の魅力

多種多様な専門領域を持つ先生方、そしてユニークな研究テーマを持つ学生たちが集まっていることは、国際文化研究科の大きな魅力です。こうした先生方や学生たちとの交流の中で、日々新たな刺激を受けています。また、この研究科では既存の枠にとらわれない研究が可能です。先生方の親身なアドバイスを受けながら、希望する研究を自由に進めていくことができます。

学んだこと、身に付いたこと

まず、多角的な視点で物事を考えられるようになったと思います。さまざまな専門領域を持つ先生方のもとで学んでいくうちに、視点によって物の見方が全く変わってくるという事に気付かされました。また、より俯瞰的に物事を捉えられるようになったと思います。既存の常識を問い直し、広い視野から眺めることで、新たなアイデアを発見する力が身に付きました。

〔研究テーマ〕
フロー理論と森田理論の比較研究

■専任教員と担当科目 (2016年度) ※年度により授業を持たない場合があります。 専 専門領域 研 研究テーマ 担 担当科目

浅川 希洋志 教授 専 心理学、人間発達学
 研 フロー経験 (flow experience) と精神的健康・Well-being との関係について
 担 ※今年度は、特定の科目を担当しません

大嶋 良明 教授 専 デジタル・メディア処理、音声情報処理
 研 我々の知的活動や芸術的表現の手段、媒体としてコンピュータやインターネットを取り上げ、諸問題を検討する
 担 多文化情報メディア論Ⅰ A・B

川村 湊 教授 専 文芸批評、日本近現代文学研究・アジア文化論
 研 日本の現代文学作品を読み、実作的立場から研究し、日本語による言語表現の可能性を追求する
 担 多文化相関論Ⅰ A・B

熊田 泰章 教授 専 テキスト論、文化記号論
 研 文化の表出原理を、言語と言語以外のテキストについての理論的考察を通して解明する
 担 多文化相関論Ⅱ A・B

重定 如彦 教授 専 情報科学
 研 ユビキタスコンピューティング、分散OS
 担 多文化情報メディア論Ⅱ

高柳 俊男 教授 専 朝鮮近現代史
 研 在日朝鮮人(広義)の歴史や文化を多面的に描き出し、新しい時代に合わせた等身大の在日像と、日本社会のあるべき姿を考察すること
 担 多民族共生論Ⅱ A・B 国際文化共同研究 B

森村 修 教授 専 現代哲学、現代アートの哲学、応用倫理学、近代日本哲学
 研 現象学研究、「こころ・魂・身体」の哲学研究。「死者」と「亡霊」を含む「他者」概念に基づく、現象学的他者論の構築
 担 国際文化共同研究 A 多文化情報空間論Ⅰ A・B

和泉 順子 准教授 専 インターネット上の情報流通に関する研究
 研 主にITSや移動体通信などが扱う実空間情報を軸にしたインターネット上の情報流通と、情報技術の普及や社会性に関する問題に取り組む
 担 多文化情報ネットワーク論 A / B

佐藤 千登勢 准教授 専 20世紀ロシア文学、文学理論、ロシア(ソ連)映画
 研 日常批判・社会批判の装置として、また人間の内的世界の縮図として、文学や映画のテキストを捉え直し、その多義性・重層的構造を分析する
 担 多文化芸術論Ⅰ

栗飯原 文子 専任講師 専 アフリカ文学
 研 アフリカ現代文学(特に小説)、およびアフリカの映画・音楽を中心とする文化の研究
 担 国際文化研究 B 多言語相関論Ⅰ A・B

今泉 裕美子 教授 専 国際関係学、太平洋島嶼国際関係史、ミクロネシア研究、沖縄研究
 研 アジアや太平洋島嶼を中心に世界諸地域の植民地政策、そこでの人々のくらし、社会、諸運動、移動、脱植民地化を分析し、現代世界の諸問題との関係性を追究する
 担 異文化社会論Ⅰ A・B

大中 一彌 教授 専 政治学、政治思想史(近現代のフランスを中心に)
 研 ヨーロッパ連合地域の政治・経済・文化を公共空間とグローバル化の関係を軸に検討する
 担 多言語社会論 A / B

甲 洋介 教授 専 ヒューマンインターフェース
 研 道具の使いやすさ(usability)を実現するための設計方法論、日常生活を豊かにする情報空間と人工物のデザイン
 担 ※今年度は、特定の科目を担当しません

輿石 哲哉 教授 専 英語学、言語学
 研 英語の形態論、英語史、辞書学、対照言語学。英語の語を中心とした領域が他の領域にどのように関わるか、さまざまな角度から検討する
 担 多言語相関論Ⅲ A・B

曾 士才 教授 専 文化人類学、中国民族学
 研 華南少数民族のエスニシティ、日本華僑の文化の再構築とアイデンティティ
 担 マイノリティ社会論 A / B

中島 成久 教授 専 文化人類学、ポスト・コロニアルズ研究
 研 文化の理論、ナショナリズム・エスニシティに関する理論、コロニアル・スタディ、開発と文化、インドネシア(東南アジア)研究
 担 ナショナリズム/エスニシティ論 A・B

リービ 英雄 教授 専 日本文学
 研 戦後から現代までの文学の名作を読んで、時代の最先端のテーマを幅広くバイリンガルに読解する
 担 多言語相関論Ⅱ A・B

佐々木 一恵 准教授 専 歴史学、ジェンダー研究、異文化接触論、帝国主義研究
 研 20世紀初頭のアメリカにおける帝國的国民主義と歴史意識とジェンダーの関係
 担 多文化相関論Ⅲ ジェンダー論

松本 悟 准教授 専 開発研究、国際協力、東南アジア地域研究
 研 国際協力が引き起こす諸問題について、関わる主体(国家、国際機関、NGOなど)に着目して社会科学的な分析をする
 担 多民族共生論Ⅰ A・B 国際協力論 国際文化研究 A

廣松 勲 専任講師 専 フランス語圏文学、文学理論
 研 カリブ海域文学およびハイチ系ケベック文学に関する、ポスト・コロニアルズ論およびメランコリー論に基づいた地域研究
 担 多文化芸術論Ⅱ

■設置科目 (2016年度) ※開講科目は年度により異なります。()内は単位数

<修士課程>
 国際文化研究 A/B (各2)
 国際文化共同研究 A/B (各2)
 多言語相関論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ A・B (各2)
 多文化相関論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ (各2)
 多文化芸術論Ⅰ/Ⅱ (各2)
 異文化社会論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B (各2)
 ナショナリズム/エスニシティ論 A/B (各2)
 マイノリティ社会論 A/B (各2)
 ジェンダー論 (2)
 多言語社会論 A/B (各2)
 多民族共生論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B (各2)
 トランスナショナリズム論 (2)
 国際ジャーナリズム論 (2)
 国際文化交流論Ⅰ/Ⅱ A・B (各2)
 比較宗教文明論 (2)
 多文化情報空間論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B (各2)
 多文化情報メディア論Ⅰ A・B/Ⅱ (各2)

Thesis Writing A/B (各2)
 Oral Presentation (2)
 国際開発論 (2)
 国際協力論 (2)
 国際人権論 (2)
 多文化情報ネットワーク論 A/B (各2)
 国際文化研究 日本語論文演習 A/B (各2)
 修士論文演習 A/B (各2)
 <博士後期課程>
 異文化相関関係特講Ⅰ A・B/Ⅱ A・B
 異文化相関関係演習Ⅰ A・B/Ⅱ A・B
 多文化共生特講Ⅰ A・B/Ⅱ A・B
 多文化共生演習Ⅰ A・B
 多文化情報空間特論 A/B
 多文化情報空間演習 A/B